

「スクールガード・子ども見守り隊」委嘱式

～見えないところで支えてくれている人たち～

2026.4.20 校長 西谷 秀幸

今日、4月20日は、板五小の開校記念日、つまり、板五小の誕生日です。板五小は、今年で96歳になりました。ここ数年、4月20日が土曜日や日曜日でお休みだったので話題にできませんでしたが、皆さんが自分や家族の誕生日を大切にしているのと同じように、「4月20日が板五小の誕生日、開校記念日」だということを、忘れないでほしいと思います。板五小が開校したときの様子については、また改めてお話ししたいと思います。

さて、皆さんは、車や自転車にぶつかりそうになったことはありませんか。また、人が誰もいない道を一人で通っていて、「怖いな…」と思ったことはありませんか。

世の中には、残念ながら、車や自転車で危ない運転をする大人がいます。また、「不審者」と呼ばれる変な人もいます。特に「不審者」は、まわりに人がいるところには行かず、まわりに人がいない時間と場所をねらって、変なことをしてくるのです。

さて、今日はこのあとに「スクールガード」や「子ども見守り隊」の人たちに、委嘱状といって「1年間よろしくお願ひします」というお手紙を校長先生からお渡しします。

「スクールガード」や「見守り隊」の人たちは、皆さんが学校に登校する時間や下校する時間に、危険な場所に立ってくれたり、外に出てくれたりしています。そうすることで皆さんが車や自転車などにぶつかって交通事故にあわないように守ってくれ、また「不審者」が、悪いことをできない雰囲気にくれてくれているのです。だから、皆さんは毎日、安心して、学校に来たり学校から帰ったりできるのですね。

でも、「スクールガード」や「見守り隊」の人たちは、おまわりさんのように仕事として見守ってくれるわけではありません。ボランティアといって、お金をもらわずに、タダでやってくれているのです。

それは、暑くて校庭で遊ぶことができない夏の日も、寒くてポケットについ手を入れたくなくなってしまう真冬の日も、立っているだけでびしょ濡れになってしまう大雨の日も、強い風で吹き飛ばされそうになってしまう台風の日も、お金を1円をもらわないで、ひたすら皆さんの安全を守ってくれているのです。

一体、なぜ、そんなことをしてくれるのでしょうか。

それは、皆さんが、この町の宝物だからです。

ですから、「スクールガード」や「見守り隊」の皆さんを見かけたら、「おはようございます」とか「さようなら」とか「いつもありがとうございます」などと、自分から挨拶をするようにしましょう。それが、「スクールガード」や「見守り隊」の方々に、お金よりも大切な「感謝の気持ち」を伝えることになりますよ。

これで校長先生の話が終わります。このあと、委嘱状をお渡しします。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

先日は、2・3年及び1・4年の保護者会、そして、一斉部会、お疲れさまでした。今週は、1年生を迎える会や離任式などがあります。よろしくお願いいたします。

さて、今日は板五小の96年目の開校記念日です。ここ数年、土日で休日だったため、久しぶりの平日になりますが、祝日の多い今年度は、授業時数確保のため、授業日としています。今日は委嘱式のため、開校時の様子について触れることができませんが、後日改めて朝会で伝える時間を作りたいと思います。

また、今日の児童朝会は「スクールガード委嘱式」ですので、委嘱状を渡す前に、「スクールガード」や「子ども見守り隊」の方に関連する話をしました。見守り隊の方たちも含め、「見えないところで支えてくれている人がいる」という内容の話は、これからも年間を通して機会があるごとに繰り返し子供たちに伝えていきたいと思います。児童の実態に合わせて、各クラスで補足をお願いします。

なお、下記は授業や学級指導における参考資料です。【資料1】については、もう少し詳しい資料（A4板：1枚）もあるので、必要な方は声をかけてください。

【資料1】ほめて伸ばす・叱って伸ばす ～叱り方のポイント～

黄金の3日間が終わり、最初の1週間が過ぎると、子供たちが新しいクラス・学年、そして先生に慣れてきて、先生に対し様々なアドバルーンをあげてくるようになる。そんな子供たちに対し、「ダメなものダメ」と毅然とした態度で接すると同時に、良い点やわずかな成長を見逃さず、ほめて伸ばすことが学級経営上、不可欠である。

さて、裏面では「叱り方のポイント」を紹介する。著者は、そのポイントとして、以下の11点を挙げている。

- | | |
|----------------------|------------|
| ①間違えて叱らない | ②比較して叱らない |
| ③一時に一事で叱る | ④逃げ場を設けておく |
| ⑤叱り方に一定の基準を設け、軽重をつける | ⑥短くスパッと叱る |
| ⑦叱る子を集団から切り離す | ⑧自己評価をさせる |
| ⑨褒めながら叱る | ⑩趣意説明をして叱る |
| ⑪子供の話を引き出しながら叱る | |

「教師は感情で怒るのではなく、演技で叱らなくてはダメだ」と言われている。感情をコントロールし、ポイントを意識しながら叱ること、そして同時にたくさんほめることにより、子供たちの力を伸ばしていきたいと思う。

【資料2】発問・指示と授業力

「授業力とは何か？」と問われら、皆さんはどう答えるだろうか？いくつもの答えがあるだろうが、私はその中心となるのが「発問」「指示」ではないかと考えている。ゆるがない発問・指示をどう作りだすか、それが授業力の向上につながると思う。

例えば、クラス全体に掃除場所を指示する場面を想像していただきたい。次の2つのうち、どちらの指示の方が効果的だろうか？

A 1班は、教室のからぶきです。 B 教室のからぶきは、1班です。
この2つが同じだと思う人は、指示の仕方を意識していないということになる。

正解は「A」である。「1班は…」と先に言うことで、自分たちのことだと意識するのである。2の指示をすると、「先生、ぼくたちは何の掃除？」「今、言ったばかりでしょ。話を聞いていなさい！」となり、結果的に子供を叱ることになってしまう。指示では「まず自分たちのことだと意識させる」…これが大切である。

ちなみに、つい「誰か、〇〇をしてくれませんか？」と指示をしてしまうこともあるかと思うが、「誰か」という指示も子供は自分のことだと意識しないので気を付けたい。（ただし、自主性を育てるために、「『誰か』と言われたら自分のことだと思って行動しなさい。」という指導を日頃から徹底しておくことも大事である…。）